

## 令和6年度 県立竜ヶ崎第一高等学校自己評価表 (定時制)

目指す学校像	10年先を透徹した生徒主体の探究学習 【高潔】 自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する 【誠実】 まっすぐ学びに向き合う、誠実で理論的な学びの場となる 【剛健】 質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける 【協和】 異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる			
三つの方針	具体的目標	評価	次年度への主な課題	
「三つの方針」(スクールポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	○10年先を透徹した生徒主体の探究学習 【高潔】 自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する。 【誠実】 まっすぐ学びに向き合う、誠実で理論的な学びの場となる。 【剛健】 質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける。 【協和】 異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる。	B	・教育目標を意識して教育手段を洗練していくこと ・多様なルーツを背景とする生徒への対応
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	○授業計画や授業方法の工夫改善により生徒たちの学習意欲をより高め、学習活動を充実させることで、充実した学校生活を送れるよう支援する。 ○全教職員が生徒一人一人の状況や動向への把握・理解に努め、働きながら学ぶ生徒の「心の居場所・拠り所」となるよう学校環境の整備を図る。 ○働き方改革を念頭に、教育活動の維持・向上を図りつつ業務の効率化を進めてライフ・ワーク・バランスを改善し、公私ともに実りある豊かな生活を目指す。	A	・授業の準備段階と実施段階両面でのDX化 ・教材および資料等の共有化を促進し、業務の効率化をより一層の推進
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	○本校の教育課程(カリキュラム)ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)にもつぎ、高等学校において学びを深めながら、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材を受け入れる。	A	・学校経営計画に基づいた生徒募集の在り方の検討 ・本校入学者の進路ミスマッチを無くすための学校広報
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
ここ数年、継続的に取り組んだ結果、全学年にわたり落ち着いた学習に取り組める環境が整備されてきた。 特に中学校在籍時に不登校だった生徒がほとんど休まず登校するようになるなど安心・安全な学校生活の保障ができています。 個別面談を定期的を実施したり、教員間での情報交換の機会を多く設けるなど生徒を支援する体制も整った。 小学校高学年から中学校3年生までに習得すべき学力を習得できていない生徒に対し、希望により「基礎学力補習」を実施することができた。習得状況は生徒によって大きな差が出たが、学び直しを繰り返し行うことによって意欲がより高まる事を期待し、同様の学びの提供を継続したい。	○学習指導の充実に努め、確かな学力の定着を図る。	①授業への積極的な参加を促し基礎的・基本的内容を身に付けさせ、一人一人が楽しく学べるよう学習環境を整える。 ②授業内容や指導法の工夫に努めながら指導スキルの向上に努め、日々の授業を充実させる。	B	
	○進路指導を充実させ、希望する進路の実現に努める。	①個別面談を効果的に実施し、個々の生徒の実態を把握し、それぞれの能力・適性に応じた適切な進路指導に努める。特に就職指導・キャリア教育の充実に努める。 ②有効な進路情報の提示や資料の収集・活用に努め、日常のふれあいの中で生徒との良好な人間関係を維持し、自ら進路決定できるよう支援する。 ③キャリア・パスポートを活用し、ホームルームや総合的な探究(学習)の時間で目標設定や振り返りを行う。 ④教員間の情報の共有を促進し、組織力・協働力で効果的な進路指導を進める。	A	
	○基本的な生活習慣の確立に努め規範意識を培う。	①社会の一員としての自覚を促し、当たり前のことを当たり前にする生徒の育成に努める。あいさつの励行、清掃の徹底、規範意識や道徳心の育成により 落ち着いた学校生活づくりに努める。 ②教員間の協働体制の下、教員が傾聴する姿勢を重視し教師と生徒の信頼関係の構築を図り、多様な背景を持った生徒一人ひとりが、安心・安全に学び続けられる居場所づくりに努める。 ③心の悩み・仕事上の困りごとの把握や問題行動の早期発見・早期解決に努め、「いじめ」は絶対に許さないという意識の醸成に努める。	B	
	○体育・スポーツ活動を奨励し、心身の陶冶と体力向上に努める。	①体育の授業や学校行事に積極的に参加させ、自ら考え行動する中から運動する楽しさや、仲間との交流の喜びを体感させ、活動意欲の向上を図る。 ②定時制通信制大会への参加を通して、自己の役割を自覚させ、助け合いや協力によって仲間意識を育むとともに、生徒間の相互理解や相互尊重の心、道徳心を養う。 ③校外活動を通して社会環境への関心を高め、意欲的に社会貢献のできる心豊かな人材の育成に努める。	A	
	○働き方改革を推進し、教職員が健康で働きやすい環境づくりを目指す	①夏季休暇の100%取得、閉庁日の完全実施、年休(時間単位を含む)の積極的取得(15日以上)等、休暇の取得等がしやすい環境づくりを推進する。 ②勤怠管理システムの活用等で教職員の超過勤務の状況を把握し、その改善やその他の課題解決に向けて取り組む。	A	
	○学校評価を活用し、教職員の授業改善の意識向上に努める。	①生徒による授業評価結果を活用し、授業改善を図る。 ②教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう指導改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80%以上となるよう努める。	B	
	○学校評価を活用し、教職員の授業改善の意識向上に努める。	①生徒による授業評価結果を活用し、授業改善を図る。 ②教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう指導改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80%以上となるよう努める。	B	
教科指導	生徒の実態に即した学習計画の立案と学習指導法の工夫を図る。	B	B	テスト前の時期に、学校に早く登校して自主的に学習する生徒が一定数いた。テスト以外の時期でも、早く来て学習する生徒が散見された。次年度はさらに増えるよう声かけをしていきたい。欠席の多い生徒に対して教科担当と担任との間で連携を図ることはできたが、欠席の多い生徒が一定数居るので、欠席を減らせるような方策を考えていきたい。
生徒の学習意欲を喚起し、基礎学力の充実・向上に努める。	学習評価は、観点別学習状況から総合的に評価する。	B		
欠席、遅刻に対する適正な指導を行う。	基礎学力補習や進学課外に積極的に参加させる。	B		
成績不振者に対する適切な指導を行う。	積極的な授業参加を促し、欠席、遅刻の過多については厳正に対応する。	B		
	個別面談や家庭との連携を通して、成績不振の原因を把握し、改善策を探る。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
教 国 語	話す・聞く、書く、読むの基本的な力や漢字力を身に付けさせる。	漢字検定などの資格取得を通して個々の生徒に目的意識を持たせる。	A	B ・生徒の実態を考慮しながら、学習展開を円滑に行い、上位者も含めて主体的な学習を促すことができた。 ・漢字検定は、学習時間を確保し、合格率46.3%と前年を上まわることができた。生徒の資格取得に向けての学習意欲は集中することで高まった。 ・評価アンケートを基に学習進度、内容等の改善に取り組めた。
	主体的な学習態度を身に付けさせる。	教材を生かして、話す・聞く、書く、読む力や、知識を身に付けさせる。	A	
	生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる	生徒の実態を考慮した授業展開を心がけて、意欲を持って学習する態度を養わせる。	B	
	生徒による学校評価を活用し授業改善、授業全体への満足度が80%以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。	教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう指導改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80%以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。	B	
地歴公民	地歴公民の基礎的な素養を身に付けさせる。	教科書の基本的な事項を理解させるために授業プリント提出を義務付ける。	B	B 生徒の実態を踏まえて進度を配慮しつつ上位者も納得できる内容にしていくように努めた。・主体的な学習態度を涵養するため調べ学習に十分な時間をとるようにした。全生徒が毎時間、一回は質問に答える機会があるように設定してきた。・視覚からの理解を促すためスマートフォンを活用して歴史上の人物や景観等をしばしば検索させた。
	現代社会の諸問題に関心を持たせる。	社会の事象について、資料に基づいて多角的に分析して、自分の意見を表現できるようにする。	B	
	地理的な見方・考え方を養う。	地図や統計を活用して地理的事象を追究する技能を身に付けさせる。	B	
	歴史的思考力を身に付けさせる。	歴史的事象を、資料・年表・地図等と関連させ学習できるよう工夫する。	B	
数 学	基礎基本的な内容を身に付けさせる。	教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう指導改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80%以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。	B	B 全学年でマナトレを使い、四則演算の計算力向上を図った。iPadを用い、グラフを自ら描画することで、学習内容の視覚化を行った。数学への興味関心も高められた。引き続き、基礎計算能力の向上を図りたい。
	数学のよさに気付かせる。	小学校・中学校の内容を未消化のままの生徒が多いことを考慮しつつ、将来、社会人として必要な基礎基本と言える数学的内容の修得習熟を図る。	B	
	生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる	数学的活動を通し、数学的な見方考え方のよさに気付かき、物事を数学的に考えることの興味関心態度の向上を図る。	B	
理 科	基礎学力の向上を図る。	提出物等の確認を計画的に行い、学習内容の定着度や理解度を把握する。	B	B プリントをPDF化することで板書事項を減らし、ICTを効果的に活用することで、生徒の学びを深めるように授業展開をした。実生活と学習している事柄の関連を意識させることができた。効果的に実験動画等の活用ができた。
		学習内容を精選し、基礎的で科学的な語彙力の習得を向上させる。	B	
		生徒の学習意欲を常に喚起するような魅力的な授業展開と実験の充実を図る。	B	
	理科が分かる喜びを実感する授業への改善に努める。	デジタル教材の活用を図り、より理解しやすい授業の工夫を目指す。	B	
	生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる。	身近な話題を取り上げ、実生活と教科書の内容とのつながりを強化する。	B	
保健体育	スポーツ活動の意義の理解を深めさせる。	教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう指導改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80%以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。	B	B 今年度の1年生が22名と人数が多かったため、積極的に巡視し生徒の活動に目配りするよう努めた。多人数が同時に同じ種目を行うことが難しい面もあり、種目がかなり限定されてしまった。多くの種目に触れて生徒自身が生涯楽しめる種目を探求することを目標としてきたが、1年生に関してはマンネリ化することを感じた。次年度は、練習ドリルを体系化し早々に指導して、自ら学ぶ力を育むキッカケとなるようにしたい。
	心身の健康についての理解を深めさせる。	運動の楽しさや喜びが深まるよう努める。	B	
	安全や健康についての理解を図る。	技能の習得段階に即した、個に応じた指導を取り入れ授業を展開する。	B	
	生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる。	安全教育や健康教育を推し進めて理解を深める。	A	
科 芸術	基本的な技法を習得させる。	教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう指導改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80%以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。	B	A 各自の能力を把握しつつ、より意欲的に取り組めるよう努めていきたい。
	完成させる力を身に付けさせる。	個々の能力・学習到達度に応じた指導を取り入れ、授業を展開する。	A	
	生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる。	幅広い教材を取り入れ、興味・関心を引きだすよう努める。	A	

外国語 (英語)	英語に慣れさせる。	基本的な語彙や文法を理解させる。	B	B	1学年は、アルファベットの大文字、小文字、月や曜日、季節、数字などの日常生活で使う単語から学習を開始。2～4年生は昨年の続きから始め、文法事項は現在形、過去形、現在進行形、過去進行形、受動態、未来形、助動詞までを学習。2年間で日記を書けるようになることを目標としたがなかなか難しい。とにかく英語を発話させる授業展開を心掛け、SVなどの文法説明をほとんど入れない授業の工夫をした。教科書暗唱テストや表現テストなどをさらに増やし、英語の運用能力を伸ばしたい。
	英語がわかる喜びを味わわせる。	語彙や文法の理解から短文の理解につなげていく。	B		
	異文化に興味を持たせる。	教科書の内容から文化の違いにも目を向けさせる。	B		
	生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる	教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう指導改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80%以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。	B		
家庭	家庭生活自立能力を身に付けさせる。	自立した生き方を考え「生きる力」を主体的に思考させる。	A	B	家庭と直結している社会の問題や課題を、生徒が自ら考えられる授業を目指したい。
	基本的技法を習得させる。	実習を通し、技能と修得の目標とする。	B		
	生徒による学校評価を活用し授業改善、生徒の主体的参加に役立たせる	教え方、生徒への対応に不足ない評価が得られるよう指導改善、学習改善に取り組み、授業全体への満足度が80%以上となるよう努め、授業への自主的参加する態度を養わせる。	B		
情報	情報活用能力を修得し、情報化社会で活躍できる人材を育成する。	必要な情報を検索、収集し、その情報の正誤を正しく見極められる能力を身につける。	B	B	情報の検索・活用・収集において、その背景にある技術などを習得し、自身で活用できる能力が得られたことが観察されている。
		収集した情報を加工し、さらに付加価値の高い情報とする能力を身につける。	B		
		加工した情報を、他人に分かりやすく伝達する能力を身につける。	B		
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価	次 年 度 へ の 主 な 課 題	
教 務	授業時間の確保に努める。	年休・出張の際の授業の振替を確実に進行。	A	B	急な年休の際の授業の振替について、教員間の連携で対応できた。新教育課程に向けて、観点別評価の内規を改正した。観点別評価の浸透を図っていききたい。本校定時制の教育活動の公表に関しては今年度は学校見学にとどめ、希望者に対し丁寧な案内を努めて十分な理解をしていた。
		急な年休に対応できるよう、各科目の自習課題を常にストックする。	B		
		教科・科目の授業時間のバランスを図り、学校行事などの調整を図る。	A		
	進級率100%を目指す。	個に応じたきめ細かな指導を行う。	A		
	授業規律を確立する。	分かる授業の展開。観点別評価規準の明確化。学ぶ姿勢を教える。	B		
	校内研修の充実を図る。	BYODに対応出来るICTリテラシーを身につける。	B		
	生徒の実態に合わせた教育課程を研究する。	生徒・教員による教育課程の評価を点検し、改善すべき点を見いだす。	A		
教育活動の公表に努める。	積極的に中学校訪問を実施する。定時制専用の学校案内を作成する。HP更新の頻度を上げる。	B			
特別活動	各種の学校行事を通して帰属意識・連帯意識・協調性・責任感を養うことで、社会性の向上を図る。	生徒が学校生活を楽しみ、帰属意識・連帯意識が高まる学校行事を行う。	A	A	・今年度は生徒会役員を11名という大人数でスタートすることになった。定時制の生徒の多くが、積極的に行動することが得意でないという特性上、選挙を行わず、立候補した生徒全員で活動することとした。組織が大きいことでうまく話し合いをすることができなかつたりしたが、行事を運営するたびに、役員間の信頼関係やコミュニケーションが良いものに変化していったことは素晴らしいことであると感じた。 ・行事の選定は適切なものであったと感じた。
		生徒会行事を精選し、企画や運営に生徒がより主体的に参加できるようにする。	A		
	キャリア形成を図る。	ホームルームや総合的な探求(学習)の時間にキャリア・パスポートを活用して、過去を振り返り将来像を考えさせる。	B		
生徒指導	基本的生活習慣の確立を図る。	欠席・遅刻等の多い生徒や生活の乱れの目立つ生徒について家庭との連絡を密にし、その状況把握に努め、面談等を通して生徒一人ひとりに応じた適切な指導を行う。	B	A	生徒指導における特別指導が1件(万引き)。生徒指導部長指導は、喧嘩によつての指導が1件あった。この数年間において、特別指導に至る生徒指導案件はなく学校運営を行うことができているのは、生徒たちの情緒が安定しているからと感じる。一方で、SNSの普及に伴い生徒を巻き込む状況も変化しているため、生徒があらゆるトラブルに巻き込まれないよう、我々教員もアンテナを高くし察知できれどもとえに担任をはじめすべての定時制職員で連携をとりつつ生徒指導してきた成果と感ずる。
	高校生・社会人としてふさわしい言動や社会規範を身に付けさせる。	日々の学校生活の中で、場面場面に応じた効果的な指導に努め、定時制における落ち着いた学校生活の環境整備を図る。	A		
	迅速な情報収集と的確な対応に努める。	定例職員打合せを通して全職員が生徒の動向を把握、共有することによって、問題の早期発見と早期指導に努める。	A		
	教育相談の充実	担任は元より、養護教諭やスクールカウンセリングを通して、心の教育の充実を図る。	A		

進路指導	個々の生徒の能力・適性に合った進路指導に努める。	進路セミナーの実施などの他、進路別・個別的な進路相談を計画的・継続的に行い、生徒の主體的な進路意識の涵養に努める。	B	B 進路決定に時間がかかる生徒がいた。今年度から複数応募が早期に可能になった。今年度の本校生徒には応募例はなかったが来年度以降には出てくるかもしれない。受験機会が増える一方、合格しても入社しないケースもあり得るので今後、企業との信頼関係をいかに維持していくかが課題になってくると思う。職場見学に向けての手続きをもっと簡略にできないかと感じた。1回目の入社試験の時には比較的時間があがるが2回目以降の時はスピードディーな対応ができないと不利になってしまうのでは、と懸念される。
	進学希望者への対応を図る。	進学希望者の実情を把握し、面談を行って希望が実現できるよう指導してゆく。始業前の時間などを利用して、希望者には各教科で個別指導を行う。	B	
	希望する進路が実現できるように支援を強化する。	就職指導を充実させて、目標を持って就職活動ができるよう働きかける。廊下に進路資料コーナーを作り、日頃から進路についての情報に触れさせる。	B	
保健室指導	健康的な生活習慣の定着と、自己肯定感を育む保健指導に努める	健康診断を受けることで、自身の健康を理解させる。自主的な心身の健康づくりの必要性を伝えることができる資質・能力を養う	B	B ・健康診断は計画通り実施できた。実施後は自分の結果について関心を持つ生徒が増えた。 ・気になる生徒には、カウンセリングを勧め、メンタルの安定に努めた。 ・校内において感染症の流行はなかった。
		心身の発達段階に応じた個別の健康相談を行う。必要であればスクールカウンセラーと連携し、生徒の問題の自己解決の手助けをする。	B	
		感染症対策は引き続き実施し、感染予防に努めさせる。健康で安心できる学校生活の継続を目指す。	B	
図書	本に親しむ習慣を身に付けさせる。	生徒の読書意欲を高められるよう、図書の案内や、読書環境の整備に努める。新聞や書籍等を教科の授業でも活用する。	B	B 読書の啓発に努める。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価	次 年 度 へ の 主 な 課 題
第1学年	基本的な学習習慣を身に付けさせる。	授業に参加することの大切さを理解させ、毎時間目的をもって学習する習慣を付けさせる。	B	B 定期的な面談を重ねたり、日々声かけを行うことで生徒の状態を理解することができた。これを継続させて、一人一人が大切にされていると実感できる学校生活を過ごせるようにしたい。
	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	学校生活における基本的な生活習慣を理解させ、集団生活を通じて規範意識を養わせる。LHRの時間や学校行事などの機会を通して人間関係を育てていく中で、他者に対する思いやりの気持ちを持たせる。	B	
第2学年	高校生活に意欲を持たせる。	様々な理由で学校生活に適応できずにきた生徒達であることに留意し、面談を行いながら生徒理解に努め、各人に合った目的を持たせて高校生としての生活に意欲を持たせる。	B	B 遅刻・欠席が多くなった生徒に特に手厚くケアを行い、学校生活に参加するよう促した。面談の中で、個人個人の成長を見ることができた。徐々に進路について考えることを勧めた。個人ごとの特徴をよく見極め、個にあった指導を心がけていきたい。
	基本的な生活習慣の確立を図る。	定期的・継続的な遅刻・欠席・挨拶・授業態度等に関する指導を行うとともに、家庭環境・心身の状態に留意しつつ、家庭との連絡を密にしながら適切な指導を行う。	B	
	基礎学力の向上を図る。	生徒の実態に応じたゆとりある授業編成を計画するとともに、日々の生徒の学習環境・心身の状態に留意し、授業の大切さを強調しながらその出席率の改善を図る。	B	
第3学年	進路についての意識向上を図る。	個別面談やHR等を通して生徒理解を深め、将来の就労や進学に向け意識の向上を図る。	B	B クラス内で、お互いが適度な距離を保ちながら、協力し合い、コミュニケーションをとれるような雰囲気を作ることができた。その延長線上には、学習においてわからないことを協力し合いながら解決しようとする様子も見受けられる。2名の生徒が3卒予定者で、大学への進学が決定した。来年度に向けて、定時制の生徒たちが継続的に学び、主體的に自分自身の進路について考えていけるようにしていきたい。
	自己実現を図るために、基礎学力の定着に努める。	自己の目標を明確にさせて、意欲的に授業に臨むことができるように指導する。	B	
	卒業後の進路を見据えて、個々の生徒に応じた進路指導を行う。	適宜進路についての面談を行い、進路実現のために情報を提供して、各人が目標を持って学校生活を送れるよう指導する。	B	
第4学年	挨拶等礼儀作法の大切さを理解させ、身に付けさせる。	学校生活の様々な場面や面接指導などを通して指導してゆき、社会で必要とされるマナーを身に付けさせる。	B	B 1名の生徒がケガのため途中休学に至ったことは残念であった。外国籍の生徒が日本語での会話能力不足もあって進路決定が難航した。早い段階での意識づけが不可欠であることを痛感した。全体的に落ち着いた態度で学校生活を送っており大きな問題もなく平穏な一年を過ごすことができた。
	高校生活最後の学年にふさわしく目標・目的を持ったハリのある生活を送らせる。	あらゆる機会にできるだけ個別指導を行う。また、保護者との連携を密にする。機会を見つけて面談を行い、卒業に向けて目標を持った学校生活を送れるよう指導する。	B	
	進路指導の充実を図る。	各種進路情報を収集し、そのつど生徒に提供する他、面接指導など、希望進路実現に向けた取組を実施する。	B	
	実社会に適応できる習慣や能力の向上を図る。	あいさつやマナー、協同作業を通じて課題を達成する能力など、卒業後社会人として必要な習慣や能力の向上を図る。	B	

※評価基準： A=良好 B=普通 C=不十分(問題あり)